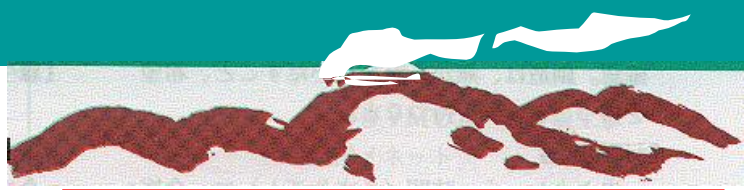
連絡先：那須ＹＭＣＡ　〒320-0041　宇都宮市松原 2-7-42　（とちぎ YMCA 内）　TEL　028-624-2546　　FAX　028-624-2489

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED　1995



那須ワイズメンズク

2017～2018年度　No.217

２月　月報

那須クラブ会長　主題

拓こう 築こう ワイズの世界

強調月間：ＴＯＦ

１月新年例会　１月２６日(金)

２０１７～２０１８年度　主題

国際会長：（ＩＰ）　Henry J Grindheim（ノールウェイ）
「ともに、光の中を歩もう」
アジア地域会長：（ＡＰ）　Tung Ming Hsiao(台湾)
「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事：（ＲＤ）栗本　治郎（熱海）
「広げよう　ワイズの仲間」
北東部長：鈴木　伊知郎（宇都宮東）
「距離に負けるな北東部､各クラブの個性を磨きましょう」

クラブ役員　事務局

会　長	：田　村　修　也
副会長	：村　田　　榮
	河　野　順　子
書　記	：内　海　研　治
会　計	：村　田・鈴　木
担当主事	：内　海　研　治
ブリテン	：田　村・村　田

１月例会データー（出席率：１００%）

在　籍　者　　６名
例会出席者　５名　メネット　２名
メイクアップ　１名

今月の聖句

主が彼らを導いて乾いた地を行かせるときも、彼らは乾くことがない。主は彼らのために岩から水を流れ出させる。岩は裂け水がほとばしる。

イザヤ書４８章２１節

２月　Happy　Birthday

２／１２　　村田　榮メン

巻　頭　言

ささやかなたのしみ

副会長　河野順子

２０２０年の東京オリンピックを目指して、アスリートたちは体力づくりや技術向上に余念のない毎日を送っているに違いない。最近、多くの種目に若い力がメキメキと芽をだし新記録という金字塔を打ち出している。なかでも卓球では日本一になった張本智和は史上最年少１４歳という驚くべき少年である。９年間敵なしだった水谷隼もただただ苦笑いするだけである。今から楽しみのオリンピックである。とはいえ、私たちの時代は、泣きながら練習している愛ちゃんがなじみである。

さて、それとは全く別物としか見えない卓球を私は今、楽しんでいる。自分の卓球と彼らのしている卓球とは同じ種目かと思われるほどの拙術ではあるが楽しい。若い時の経験といえば、兄弟同士で自庭にリンゴ箱を台に張り板を二枚合せてワイワイ楽しんだくらいである。今回、シルバー大学校で卓球する機会に巡り合い昔の思い出を脳裡に置きながら始めた。しかしながら、我流でのフォームでは試合をしても歯が立たない。無残。悔しい。これで一年過ぎてしまった。

そこでシルバー大学校のＯＢ練習日に参加することにした。やはり、私の動きは目立つようである。その姿を見かねた先輩（８０歳くらい）がラケットの持ち方。立ち位置、フォームを修正してくださっている。ラケット（ペンシル型）は拇指の第一関節だけ曲げ、示指は第二関節まで曲げ力を入れずに握る。残りの三指は重ねるようにして右の方向に置く。バックに来た時のためだ。ラケットは肘を９０度に曲げて横から振る。どうも私はラケットを下から振っているようだ。振り方はボール（ラージボール）を回転させながらラケットをかぶせて自分の左目の上あたりまで持っていく。（右利き）。からだの向きは前を向いて、少し爪先立ち右足からラケットを振る時に左足に体重を移動する。ボールから目を離さない。ラケットの真ん中に当たるように集中する。練習は上手な人と行い一定の場所に来るボールを打つ練習をする。肘を軸と考える。相手の対角線コーナーの手前にボールが届くように打つ。さあ、これだけをマスターして上手になれるか。数日だけこの指導を受けてきているが、周りの人からは「上手！上手！」と褒められる。その気になっている。こんなに一生懸命指導してくださるというのは伸びしろがまだまだあるのか、つまり見ていられないほど下手なのかと思いながら、今日も雪の中楽しく卓球に向かう高齢者なのであります。

１月（新年）例会

内海　研治

日時：１月２６日（金）１８：３０～２０：３０
場所：季節料理「いとう家」
参加者：田村、河野、村田、原田、内海の各メン。メネット：田村、原田

新年例会がいとう家（那須塩原市、うなぎで有名）にて行われました。この週は全国的に大雪に見舞われ、昨年と同じく降雪と新年例会が重なったことはメンバーの中で話題となりました。

田村会長の開会点鐘、その後会長挨拶をいただき例会がスタートしました。司会は村田副会長によって進められ、食前の感謝祈祷は原田メネットにしていただきました。食事はお刺身に始まり、サラダ、てんぷら、メインのうなぎ、そしてデザートと、豪華な内容で大変美味しくいただきました。食事のあとは、新年例会のテーマである、「今年一年の抱負」について一人ひとり語り合いました。以下、簡単ではありますがメンバーの抱負をご紹介させていただきます。

田村メン：ＹＭＣＡ・ワイズのバトンを受け継いでくれる方が出てきてくれるように祈りながら、クラブメンバーが増えるように声をかけていく（メンバー増強）。ＹＭＣＡブランディングで新しいＹＭＣＡが広がるように。健康第一。

村田メン:次の世代がほしいということが一番の願い。そのために教会のなかでつながりをつくっていく。そして２５年間続いたカンボジアでの活動、今年最後としていってきます。

田村メネ：ワイズ・ギデオンの後継者をどのように見つけるかが重要。西那須野教会に若い人が入ってきているように、若い人が主役になり教会のなかでよき交わりができるといい。人間の力に頼るのではなく、聖書に立ち帰り祈っていくことが大切。神さまが用意してくださること、聖霊の力を信じてやっていくこと。近く企画があるので、伝道の基本にあるチラシ配りと声かけを実践する。

河野メン：部活動の外部指導の民間委託でＹＭＣＡが取り上げられており、揺るがない確かなＹＭＣＡの伝統を感じた。そこに由来するワイズはどうあるべきか。今後核となるメンバーからの広がりを支えていく。私生活では「よく見て、慎重に選んでいく」こと。

原田メネ:楽しくＹＭＣＡに参加するために健康第一。シニアになってから外との関わりを持っている人は１７％（ＯＥＣＤ）に対し、毎日いろいろな方と交わりを持て、気付きを与えられていることに感謝。シニア向け運動指導について学びを深めたい。

原田メン：信仰と健康。信仰という意味での社会とのつながりが健康にもつながっていく。教会建築について神さまが必ず用いてくださることを信じて成し遂げたい。聖書を通読することでの新たな気付きがありこれからも学んでいく。健康については身体を動かすこと、やる気を起こすこと。
内海：自分自身のミッションを教会に通うことで見つめ深めていきたい。

２月第２例会（役員会）報告

日　時：２月２日（金）午後６時３０分～
場　所：ココス西那須野乃木店
出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、内海書記、田村メネット
協議事項
１．２月例会について
ＣＳ（公開講演会）を２月２３日（金）午後６時３０分から西那須野教会にて開催する。題：可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで講師：河野順子ウィメン（栃木県訪問看護ステーション協会会長）プロジェクトの使用。ユースリーダーの参加を期待。夕食は、６時からとする。会費は、メンバー５００円。夕食準備（カレー）は、ユースリーダーに依頼。お米とじゃがいもは村田が準備。紙皿は、村田が購入。申し込みは、２月２０日（火）田村会長まで。
２．３月例会について
ユースリーダーによる活動報告会。日時：３月２３日（金）午後６時３０分から。場所、西那須野教会１階ホール。詳細については、３月役員会（第２例会）にて検討。
３．次年度会長研修会について
３月３日・４日に東山荘で開催される会に河野ウィメンが出席する。クラブとして、交通費、参加費の補助として３０，０００円を支出する。
４．３月ブリテン発行について
いつも通り早い目にお願いする。
５．３月役員会（第２例会）の開催日について
３月２日の役員会（第２例会）を変更して、２月２６日（月）午後６時３０分より開催する。クラブ会則について検討する。
６．その他
・後期会費は１月３０日に納入済。
・会計について、村田会計より説明。
・村田メン・メネットが２月１０日より１８日までカンボジア・ラオスへの「歯ブラシ・歯みがきツアー」に参加する。
・３月の特別例会は、３月１０日（土）凧揚げ。
・次回のシイタケ昆布は、３月例会時に購入する。

今後の予定

・２月第１例会（ＣＳ公開講演会）
日時：２月２３日（金）午後６時から夕食、
午後６時３０分講演会開催。
場所：日本キリスト教団西那須野教会
内容：公開講演会
題：可能な限り住み慣れた地域で、
自分らしい暮らしを人生の最後まで
講師：河野順子ウィメン（栃木県訪問看護ステーション協会会長）
会費：メンバーは５００円（ビジターは無料）。

・３月役員会（第２例会）
日時：２月２６日（月）午後６時３０分～
場所：ココス西那須野乃木店
内容：３月例会（ユースリーダーによる報告会）、４月例会（植樹例会）、４月号ブリテンの発行等。

・３月特別例会
日時：３月１０日（土）午後２時～
場所：大田原市ふれあいの丘
内容；凧あげ会（東日本大震災を覚えて）

・３月例会
日時：３月２３日（金）午後６時から夕食、
午後６時３０分講演会開催。
場所：日本キリスト教団西那須野教会
内容：ユースリーダー活動報告会

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第５８回）

会長　田村修也

工事監督には内務省疏水課の渋谷吉蔵さんがあたり、印南さん矢板さん、それに那須開墾社の森与平さんと協議をしながら進められました。工事の熟練工は安積疏水工事にあたった人々でした。金銭の出納は那須郡役所を通じて行われ、現金の支払いそのものは那須開墾社で行う方法がとられました。「自費による試削」と言いましても、準国営的な事業でありました。このように、印南さん矢板さんの第２回、第３回の上京は、トンネル試験掘りの資金調達と国の許可指令と取り付けて工事着工にこぎつけるという、那須疏水開鑿の大

きな前進という成果を上げたものでした。この他に那須開墾社関係の諸用件を果たしたことは勿論のことです。西岩崎周辺のトンネルの試験掘りが進行している中、明治１７年（１８８４）１０月１２日から２１日にかけて、印南さん矢板さんは４度目の上京を行いました。出発から帰郷までわずか１０日間ですから、お二人の上京の中で最も短期間の活動でありました。印南さん矢板さんは１０月中に「那須原疏水御起業之儀ニ付続願」を三島県令あてに提出しています。運河開鑿を願った上申書の「続願」とありますから、この段階でもまだ従来の運河開鑿に固執していたことがわかります。　第４回目の上京の目的は水路関係の他に６件ありますが、中心となったのはやはり水路開鑿のことのようです。しかしながら１０月２３日には新国道と塩原街道の開通式が肇耕社（三島開墾）で挙行されることになりましたので、印南さん矢板さんは太政大臣一行の饗応にあたるために東京滞在日数を短期間にして１０月２１日に帰途に就きました。（余談になりますが、新国道陸羽街道は矢板から那須野が原の真中を通り一路白河へ向かうもので、奥州街道は宇都宮、白沢、氏家、喜連川、佐久山、大田原、鍋掛、伊王野の各宿場を通って白河関に津続く道ですから、交通の流れに変化がもたらされました。現在、従来の２車線から４車線に構造を変える工事が進められています。また塩原温泉には、今は西那須野駅または新幹線那須塩原駅から関谷宿を経て行くのが当たり前のように思われています。しかし土木県令と言われる三島県令により塩原新道が開通するまでは、塩原温泉と言えば鬼怒川、川治温泉を経て会津若松へと続く会津西街道の三依に入りおかしら峠を越えてしか行くことの出来なかった秘郷の温泉でした。無類の温泉好きだったと言われる秀吉も小田原攻めの時に来たという事績があり、会津西街道の日光・鬼怒川と塩原を結ぶスカイライン日塩街道の会津西街道側には滝があって、「太閤おろしの滝」と名が付けられています。太閤さんはどのようにして塩原元湯までたどり着いたのかとても興味があります）。

さて、印南さん矢板さんが帰郷して間もない１１月６日に、後に県令となる樺山資雄栃木県大書記官は、三島県令の代理として「水路開鑿・開墾利益問答」という報告書のようなものを中村素雄内務省土木局長代理あてに提出しています。この内容は、那須野が原に水路を開鑿することによって、水田八千六百余町歩が開け、八万六千石の収穫があるというものでした。（１石は１０斗（１斗は１０升）で１８０ℓ、米俵で２．５俵。八万６千石は米俵にすると２１万５千俵になります。大名級の石高になります）。おそらく印南さん矢板さん等の請願する水路開鑿に対して、国の土木局ではどの程度の効果があるかを、栃木県庁に調査を命じていたのでしょう。何時の時代でも費用対効果が問われていることがわかります。　　（以下次号へ）

西那須野幼稚園だより

学校法人　西那須野学園　西那須野幼稚園
理事長・園長　福本光夫

私は西那須野幼稚園に勤めて以来、基本的に土日祝日の日は動物の世話をしています。ここ２年間はＯ君と交代で、Ｎ先生がしてくれていた１０年間を除くと、２０数年間になります。今は羊とうさぎだけですが、過去には牛、山羊、ポニー、タヌキ、ニワトリ、アヒル、種々の小鳥、金鶏、クジャクもいました 。動物が沢山いた次期は食べる量も多かったので、草がある時期は土曜の午後草刈り行き、日曜の朝も朝は午前６時くらいから草刈りや乾し草づくりをしていました。それは前園長が、子どもと動物というものは、大方の大人の私(I)とそれ(It)という人とモノの関係では無く、私(I)とあなた(You)という人格関係であること。それは、日常を共にする事によってのみ培われるからです。また、教師に対しては、物言わない動物の気持ちがわかるようでなければ、子どもの気持ちはわからない。この仕事は誰にでもまかすことは出来ない。とよく言っておりました。

さて、この冬休みにわくわくすることがありました。掃除をしていて、ウサギは同じ所で糞尿をしますが、羊は所構わずします。それが寝床であつたとしてもです。これは、前からわかっていたことで、うさぎのように１カ所でしてくれると随分楽なのにとずうつと思っていました。掃除をしていて、うさぎは犬と同じように縄張りのマーキングかなと考えました。それでは羊はと考えると、羊はもともと草を求めて遊牧されてきたものだ。次に生える草の為に食べたところにパラパラと肥料を残していく。循環型の生態系の一部を担っている。そう考えると糞は敷地に均等にしている。風で転がり拡がりやすい。堅くてゆっくり分解する。本当はどうかわかりませんが、羊の「コロン」と「リボン」は話すことはできませんが、循環型の生態系の大切さを毎日教えてくれていた。気づくのに２０数年かかりましたが、何か凄いことを発見した気持ちになりました。

これは、子どもたちの遊びの中で見いだされるもの、わくわく感と同じです。ただ遊ぶだけではなく、遊び込むことによってのみ得られるものです。これからは正解がなく、その時その時の適解をもとめていかなけ

ればならない時代。「ＶＵＣＡ」時代とも言われています。Volatility（変動）、Uncertainty（不確実）、Complexity（複雑）、Ambiguity（曖昧）これら四つの要因により、予測困難な状況に直面しているという時代認識です。地域が無くなった現在。その基礎としての遊びが幼稚園に求められています。行事を見直し遊び込むことを大切にします。

ところで、１６日(火)には芳賀地区自立支援協議会すこやか発達部から１２名のかたが、児童発達支援センターシャローム、幼稚園、保育園視察されました。こちらは、シャロームのＳ児童発達支援管理責任者、児童発達支援事業担当Ｆ児童指導員、放課後児童デイサービス担当Ｓ児童指導員 と私で対応し､意見交換をしました。県東障害福祉圏域にある真岡市、益子町、芳賀町、茂木町、市貝町が資金を出し合い、社会福祉法人に委託して３年後に児童発達支援センターを立ち上げる計画とのことでした。自治体の壁を乗り越え、地域のすべての子どもたちの幸せの為に協力する。とても素晴らしいこと思いました。財政的にも支えてくれる。とてもうらやましく思いました。就学前の子どもたちへ多様なアプローチや投資が、もっとも効果的であると研究では報告されています。県北の自治体もそのような考えになると良いと思いました。

アジア学院たより

学校法人　アジア農村指導者養成専門学校
校長　荒川　朋子

２０１７年度を振り返って

２０１７年度の終わりに日本社会に起きたいくつかのことを振り返った。一つは流行語のひとつに選ばれた「インスタ映え」である。説明するまでもないが、「インスタ映え」とは、インターネット上の「写真共有サービスの「Instagram」（インスタグラム）に写真をアップロードして公開した際にひときわ映える、見栄えが良い、という意味で用いられる表現」である。自分がアップロードした写真に対し、「いいね！」という評価を受けることが自分自身への高評価を意味すると信じる多くの人によって、「インスタ映え」するスポットには大勢の人が押し寄せ、そこで写真を撮ってはアップロードするということが流行ったのである。時には外出や生活の目的そのものが「インスタ映え」する写真を撮ることになる現象も見受けられた。特にレストランでは、出された料理がまずスマホの写真に収められ、それがすぐさまインスタグラムにアップロードされるという風景がよく見られるようになった。

私は正直に言ってなぜこれほど多くの人が自分がこれから食べるものを毎回毎回写真に撮って、それを多くの人に見てもらいたいと願いをもっているのかよく理解できない。自分の撮った動画を簡単にインターネット上に上げて世界中の人に見せることのできるYoutube の創業者たちは、遠く離れた家族や友人に自分の日常を簡単に見せたいと思ったことが開発の動機だと語っていた。その動機はよく分かるが、さらにインスタグラムは動画でなく写真なのでもっと簡単に早くそれを行うことができるわけだが、それにしても毎日毎日、さらに１日に何度も自分の日常を見せたい、知ってもらいたいという願望はどうして生まれるのか。ある人はその理由を、「言葉や中身ではなく、かわいい、おいしそう、楽しそうな「映える」写真と「いいね！」の数が『私』の輪郭をかたどる」からだと言っていた。そして「言葉を介すよりもきっとスムーズに『私』は他者とつながれる」からだとも言っていた。明確な言葉の使用をしないので不必要な衝突や誤解を避けることができることも理由かもしれない。

この説明を読んで、なぜ自分が多くの人々が「インスタ映え」にこれほど盛り上がっていることを気にしているのかがわかった。つまり、多くの人が、自分自身を表現するために言葉を使う努力をしなくなっているように見えたからだ。多くの人が対立、衝突、誤解から生まれる不快感を避け、とても安全で無難な自分のイメージを表現し、一般受けするものだけで人と関わろうとしているように思えてならないのだ。インスタグラムは自分自身を表現し、人と簡単に安全につながれるという欲求を満たすには最高のツールだ。しかし問題は人が不明瞭な自分自身についてそれをもっと探索しようとする、それを表現する言葉を見つけ出そうとする努力をしなくなっていってしまうのではないかということである。似たようなことが政治のリーダー達のTwitter（ツイッター、日本語訳は「つぶやく」）である。今まで影響力のある政治家やリーダーは周到に準備された「会見場所」で、周到に考え抜いた言葉を語ったものであるが、最近はTwitter というインターネットのプログラムで、個人の考え、コメント、時には感情的な意見が、あたかもだれかにふっと「つぶやく」ように瞬時に簡単に世界に発信される。影響力のあるリーダーの考え方を瞬時に知ることができるのはいいこともあると思う。特に政治のリーダーのような大人物が一般の人と同じような日常を送っていることを知ると、わたし達はそういった人たちを身近に感じ、共感を覚える。しかし、社会に影響力のある人物の言葉というのは、熟考の末慎重に世に出されるべきではないだろうか。軽率に早く出したがために、その国の多くの人々、さらに他国や世界全体に影響を与え

ることも無きにしも非ず、いいえ、実際に起きているのが現実だ。もっと慎重に、もっと尊厳をもって扱われるべき言葉が、ここでもとても軽く扱われていることが分かる。
Twitter のことで言えば、昨年１０月に神奈川県座間市で信じられないような事件が起こった。２７歳の男性がわずか２カ月の間に９人の若者を自分のアパートの部屋で次々と殺害し、その遺体をその部屋に遺棄していていた事件だ。殺害された９人全員が Twitter でこの犯人とつながっていた。被害者は皆自殺願望を Twitter に投稿していて、犯人は言葉巧みに被害者を誘い、自分のアパートに連れ込み殺害をしたというのだ。なぜこの犯人がこのような残忍な事件を起こしたのかは分かっていない。「金、女性、絶望、死への願望、普通の軌道から外れてしまった人生、現実逃避、このうちのどれかひとつでなくすべてかその複合か」―いずれにしても明らかではない。
昨年度起きたことにもうひとつショッキングな事件があった。相模原市でこれまた２０代の男性が、精神障がい者施設に押し入り、２７人もの入居者を殺害した事件である。前述の座間の事件同様、数か月間は世の中をざわつかせていたが、今となってはもう多くの人の脳裏から消えているのではないかと思う。私たちは情報の大海に漂っているかのようで、ショッキングなニュースは毎日波のように次から次へと押し寄せてきて、以前起きたショッキングなニュースは、深く議論したり反省したりする間もなく次の新しいショッキングなニュースに飲まれ消えていく。
しかしこの大きな２つの事件は私たちに重大な疑問を投げかけていた。例えば、障がい者は生きる価値がないのか、死にたいという願望を持つ人は殺されていいのか、といった疑問だ。２つの事件がともに若い男性によって引き起こされたということは、若い世代がこのような生に関する大きな問題を、他の人、特に違う世代の人間と話す場所や機会を必要としているということを意味しているように思う。
このことについてある新聞記者は次のように書いていた。「かつては大事件が起きれば、社会が生んだ犯罪かもしれないと、漏れ伝わってくる容疑者の「声」に耳を傾け、時に想像力を使って、背景を理解しようとする「作法」があった。」「社会的想像力が弱まれば、負担を押し付けられた人は押し付けられたまま、ブラックボックスはブラックボックスのまま、力を持つ人の声だけが響く、それはそれでスムーズな社会が現出するだろう。」よく分からない自分、よく分からない相手が、覆いを取り外す努力のないまま放置される。「自分とは別世界の「異物」が引き起こしたものと、簡単に切り捨てる」忙しい生活と情報の大波の中で難しい質問は置き去りにされていく。
そのことと、何かわからないものを表そうと言葉を探して、その言葉を丁寧に紡いでいく努力がみられないこととは無関係か。いや、関係があるのではないか。そういったことを２０１７年度の終わりに考えていた。そして年が明け、今、これまでにもまして戦争の脅威を身近に感じるようになっている。朝鮮半島、その向こうの中国、そしてアメリカが日本の頭上で、日本を挟んで、緊張関係を展開し、日本は身動きができない状況だ。戦争はどこか遠い世界の話だったが、今はあきらかにそうではない。今年は平和とは何か、どうしたら平和を維持することができるのか、日常の生活の中でもっと現実的に話をしていかなければならない年になるのではないかと感じている。そこにも言葉は不可欠だ。言葉以外のものでしか表現できないものも多くあるが、言葉でしか表現できないものもある。こんな根本的なことも言っていかなければならない時代なのかもしれない。

ＹＭＣＡだより

【とちぎＹＭＣＡウィンタープログラムが終了しました！】
１２月下旬よりスタートしました、とちぎＹＭＣＡウィンタープログラム（キャンププログラム・日帰りプログラム・スキープログラム・ウェルネスプログラム）が予定通り実施され、無事に終了いたしました。
沢山の子どもたちが参加し、有意義な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることができました。ユースボランティアリーダーも各プログラムに参加し、それぞれの役割の中で子どもたちと向き合い､共に過ごしました。
ＹＭＣＡのプログラムには Caring（やさしくする）、Honesty（しょうじきになる）、Respect（人を大切におもう）、Responsibility（できることは自分からする）というＹＭＣＡで大切にしている４つの想いが込められています。プログラムの様々な場面で、子どもたちがそれらを感じ考えてくれたらとても嬉しく思います。また、その経験が子どもたちを成長させ、日々の生活で活かされることを願い、今後もプログラムを展開していきます。

【ＹＭＣＡピンクシャツデー　２月２８日（水）】
ピンク色の服を着ていじめ反対をアピールする「ピンクシャツデー」を今年も全国のＹＭＣＡで行います。

この運動は２００７年カナダで、ピンク色のシャツを着た少年がゲイだといじめられたことに抗議し、皆でピンクシャツを着たことから始まりました。社会全体がいじめに対して「自分事として」向き合うこと、そして被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者にならないこと」が、いじめられている人を救うことになると私たちは考えます。公平で平和な世界の実現を目指していきます。２月２８日はみなさんでピンクシャツを着ましょう！

【とちぎＹＭＣＡ・那須ＹＭＣＡの２月の予定】

・２/３（土）　雪あそびデイキャンプ@なす高原自然の家
・２/３（土）　サタデークラブ@那須甲子青少年自然の家（雪遊び）
・２/４（日）　スプリングプログラムキックオフリーダートレーニング@宇都宮ＹＭＣＡ
・２/１０（土）　サタデークラブ@那須甲子青少年自然の家（雪遊び）
・２/１０－１１（土・日）　フェブラリースキーキャンプ@菅平高原
・２/１７（土）　サタデークラブ@福田いちご園（いちご狩り）
・２/１８（日）　Ｙキッズ@栃木県福祉プラザ（お菓子作り）
・２/１７－１８（土・日）野外クラブキャンプ
・２/１７（土）　わくわくトライキッズ@星ふる学校くまの木（塩谷町）
・２/１８（日）　ＹＭＣＡドッジボール栃木県予選
・２/２４（土）　サタデークラブ@福田いちご園（いちご狩り）
・２/２８（水）　ＹＭＣＡピンクシャツデー

ユースリーダーのつぶやきコーナー

１.名前（リーダー名）２.学校名３.出身地４．YMCAに入ったきっかけは？５.思い出に残った活動とその理由は？６.今後の進路は？７．YMCAに一言

１．小林美里（けーも）
　※写真左上
２.国際医療福祉大学･作業療法学科４年
３.福島県
４.子どもが好きだったから
５.サタデークラブ
６.作業療法士

７.いろいろなことを経験させていただきありがとうございました！！

お願い

ワイズメンズクラブでは、年賀状の３等年賀切手を集めております。“国際社会・地域社会への奉仕・支援のための資金つくりのため”ぜひご協力をお願いします。当選番号は、下２桁、２７，８６です。